

技術・家庭（家庭分野）

家庭分野における改訂のポイント

1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

技術・家庭科における「**主体的な学び**」とは、現在及び将来を見据えて、生徒や社会の中から問題を見だし課題を設定し、見通しをもって解決に取り組むとともに、学習の過程を振り返って実践を評価・改善して、新たな課題に主体的に取り組む態度を育む学び

「**対話的な学び**」とは、他者と対話したり協働したりする中で、自らの考えを明確にしたり、広げ深めたりする学び

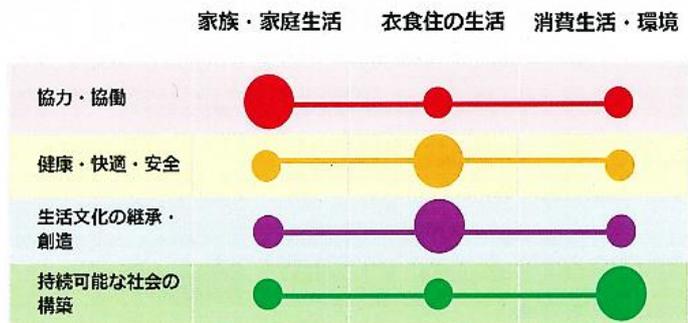
「**深い学び**」とは、生徒が生活や社会の中から問題を見だして課題を設定し、その解決に向けた解決策の検討、計画、実践、評価・改善といった一連の学習活動の中で、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせながら課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりして、資質・能力を獲得する学び

このような学びを通して、**生活や技術に関する事実的知識が概念的知識として質的に高まったり、技能の習熟・定着**が図られたりします。また、このような学びの中で「主体的な学び」や「対話的な学び」を充実させることによって、技術・家庭科が育成を目指す思考力、判断力、表現力等も豊かなものとなり、生活や技術についての課題を解決する力や、生活や技術を工夫し創造しようとする態度が育まれます。

2 「生活の営みに係る見方・考え方」について

家庭分野が学習対象としている家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫することを示したものです。

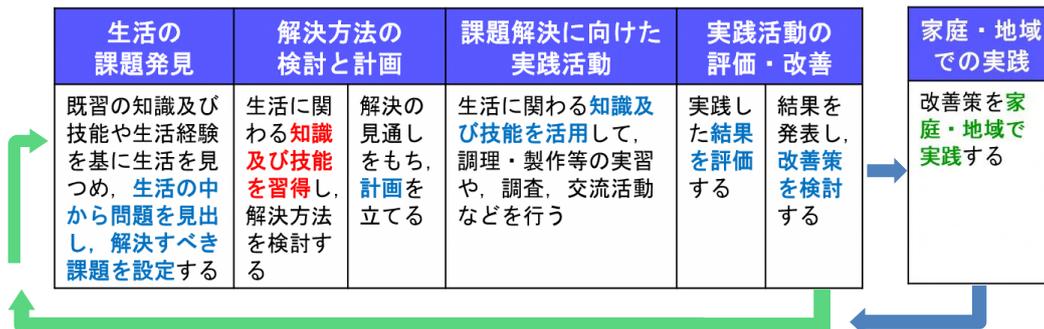
自立し共に生きる生活の創造



取り上げる内容や題材構成等により、どの視点を重視するのかは異なる

3 「家庭分野の学習過程」について

一連の学習過程を通して、生徒が課題を解決できた達成感や、実践する喜びを味わい、次の学習に主体的に取り組むことができるようになります。また、3学年間を見通して、このような学習過程を工夫した題材を計画的に配列し、課題を解決する力を養うことが大切です。



※上記に示す各学習過程は例示であり、上例に限定されるものではないこと

家庭分野における学習評価のポイント

1 家庭分野における評価の観点について

- 3つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のように3観点に整理して示されています。

【旧】	【新】
評価の観点	評価の観点
生活や技術への関心・意欲・態度	知識・技能
生活を工夫し創造する能力	思考・判断・表現
生活の技能	主体的に学習に取り組む態度
生活や技術についての知識・理解	

【中学校 技術・家庭（家庭分野） 評価の観点及びその趣旨】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付けている。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

2 「知識・技能」の評価

- 「知識・技能」については、基本的には、当該指導項目で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項アについて、その文末を、「～について理解している」、「～について理解していると同時に、適切にできる」として、評価規準を作成します。
- ※「A家族・家庭生活」の（1）については、その文末を「～に気付いている」として、評価規準を作成します。

3 「思考・判断・表現」の評価

- 「思考・判断・表現」については、教科の目標の(2)に示されている学習過程に沿って、「課題を解決する力」が身に付いているのかを評価することになります。
- ①家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を設定する力については、その文末を「～について問題を見いだして課題を設定している」
 - ②課題解決の見通しをもって計画を立てる際、生活課題について多角的に捉え、解決方法を検討し、計画、立案する力については、その文末を「～について（実践に向けた計画を）考え、工夫している」
 - ③課題の解決に向けて実践した結果を評価・改善する力については、その文末を「～について、実践を評価したり、改善したりしている」
 - ④計画や実践について評価・改善する際に、考察したことを理論的に表現する力については、その文末を「～についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している」
- として、評価規準を設定することができます。

4 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- 「主体的に学習に取り組む態度」については、基本的には、当該指導項目で扱う指導事項ア及びイと教科の目標、評価の観点及びその趣旨を踏まえて作成します。その際、対象とする指導内容は指導項目の名称を用いて示すこととします。
- ①粘り強さ（知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面）
 - ②自らの学習の調整（その中で自らの学習を調整しようとする側面）
 - ③実践しようとする態度
- を含めることを基本とし、その文末を「～について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり（①）、振り返って改善したり（②）して、生活を工夫し創造し、実践しようとしている（③）」として、評価規準を作成します。